

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 3 入学 現 3 年生	国語			数学			英語		
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時
	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	68.5%	54.7%	68.0%	47.3%	34.5%	42.0%	54.1%	50.2%	36.0%
	(0.99)	(0.97)	(1.00)	(0.91)	(0.86)	(0.89)	(0.98)	(0.91)	(0.92)
R 5 正答率の全国比			0.97			0.82			0.79

◎ 1・2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語科では、「質問に対する答え方の工夫」(話すこと・聞くこと)が全国の平均正答率より 6.8 ポイント高い。また「現代文と古典の比較」(読むこと)が 6.8 ポイント低い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の指導がさらに必要で、知識・技能の強化が求められる。
- ・数学科では、「累積度数を求める」(データの活用)が全国の平均正答率より 8.5 ポイント高い。また「四分位範囲を求める」(データの活用)で間違っ「範囲」を求める誤答が目立ち、19.3 ポイント低い。さらに説明問題(数と式)も 14.4 ポイント低く、記述式の問題に課題が見られる。
- ・英語科では、「聞き取った内容の絵を選ぶ」(聞くこと)が全国の平均正答率より 3.1 ポイント高い。また「英文を読んだ後、空欄に適切な語句を入れる」(読むこと)が 19.8 ポイント低い。ここでも記述式の問題に課題が見られる。
- ・意識調査からは、将来の夢や希望を持っている生徒は 60%ほどで課題であるが、人の役に立つ人になりたいと考える生徒が 97%である。また、タブレットを持っているものの、自宅へ持ち帰り、英語の発音や会話の練習をしない生徒が 70%を超えている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「授業づくりのステップ 1・2・3」等の授業改善リーフレットを活用した取り組みを推進する。
- ・授業において「見通し」や「振り返り」の場面を設定し、主体的な学びにつなげる。
- ・実力テストに合わせて学習強化期間を設け、計画的な学習や、学習の質の改善を支援する。
- ・校内研究会や授業研究会を実施し、授業や家庭学習における ICT の効果的な活用法を探る。これを基に、個別最適な学びと、協働的な学びの充実を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・今年度から学活ノートに代わる「フォーサイト手帳」を導入した。生徒が主体的に学習に取り組む視点を探らせる意味で活用している。これからさらに有効利用の方策を模索していく。
- ・今年度から「リディング DX 事業」展開の一手として家庭学習の充実に着手した。今後研究を深めていく。
- ・各教科で生徒が到達状況に応じて選べる課題を提示し、家庭学習の充実を図る。
- ・提示した学習課題や自主学習への取り組み状況を適宜確認する。
- ・朝読書を通して落ち着いた教室の雰囲気をつくる。

1 生徒の実態

(1)学習状況調査結果の推移

R 3 入学 現 3 年生	国語			数学			英語		
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時
	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	65.8	56.9	66.0	55.4	36.9	42.0	48.3	47.3	32.0
	(0.95)	(1.01)	(0.97)	(1.07)	(0.92)	(0.89)	(0.88)	(0.86)	(0.82)
R 5 正答率の全国比			0.95			0.82			0.70

◎ 1・2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査[3 教科共通]に読み取れる実態】

- ・全国や県と比べると、3 教科とも平均正答率は低い。
- ・問題形式では、記述問題での正答率が低い傾向にある。
- ・無回答率が、全国や県と比べると低い。あきらめずに自分が知っている知識でなんとか解いていこうとする態度が身についている。

【学習状況調査[国語]から読み取れる実態】

- ・学習指導の領域の我が国の言語文化に関する事項、情報の扱い方に関する事項の正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
- ・学習指導の領域の言葉の特徴や使い方に関する事項、書くことの正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。

【学習状況調査[数学]から読み取れる実態】

- ・学習指導の領域のすべての項目において、正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。特に、データの活用の正答率が低い。

【学習状況調査[英語]から読み取れる実態】

- ・学習指導の領域のすべての項目において、正答率が低く、佐賀県と全国の平均正答率を下回っている。特に、データの活用の正答率が低い。
- ・問題形式の記述式の正答率が低い。

【意識調査から読み取れる実態】

- ・授業で I C T 機器をよく使って学習した生徒の割合が高く、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用している。
- ・地域の行事に参加している生徒の割合が高く、佐賀県と全国の割合を上回っている。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える生徒の割合が高く、佐賀県と全国の割合を上回っている。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が低く、佐賀県と全国の割合を下回っている。
- ・授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している生徒の割合が低く、佐賀県と全国の割合を下回っている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。
- ・感染症対策を十分にとりながら、話し合い活動など意見交流の機会を増やす。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・8 1 0 大作戦（家庭学習強化の取り組み）、タブレットドリルを活用することで、家庭学習の充実、基礎学力の定着につなげる。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒会活動において、生徒自身による企画、立案の行事を増やす。

1 生徒の実態

(1)学習状況調査結果の推移

R 3 入学 現 3 年生	国語			数学			英語		
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時
	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	60.2	50.2	58.0	49.6	36.5	34.0	49.6	49.6	33.0
	(0.87)	(0.89)	(0.85)	(0.95)	(0.91)	(0.72)	(0.90)	(0.90)	(0.85)
R 5 正答率の全国比			0.83			0.67			0.72

◎ 1・2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」で肯定的な回答が 42.3%、否定的な回答が 57.7%と半数以上が発表に対する苦手意識がある。また、分かりやすく伝える意識が低いことや工夫した伝え方が習得できてないと推測できる。

[国語]

- ・基本的知識を問う問題で、繰り返し指導を行った内容では定着がみられた。
- ・読み解いたことをもとに、自分の考えを述べる問題では課題がみられた。
- ・前後の文脈を読み、判断する問題にも課題が見られた。

[数学]

- ・記述式問題は全国平均より正答率が低かったが、高い問題もあった。また無回答率の割合は 0%で全ての問題にチャレンジしようとする姿がみられた。
- ・短答式の中でも知識応用型問題では課題がみられた。

[英語]

- ・記述式は半数以上が無回答の問題があった。
- ・自分の考えを書くこと、話すことに特に課題がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

[国語]

- ・単元全体の振り返りを文章で書かせる。
- ・語彙指導を繰り返し行う。
- ・文章全体の評価をする授業を組み立てる。

[数学]

- ・ドリル的な学習を少し増やすとともに、定期テストで学習状況調査の過去問題等を活用していくことも検討する。
- ・宿題プリントを、生徒側にとって「①こまめに、②計画的に、③1 人学びがしやすい手立てを入れる」ことを心がけて作成・実施する。
- ・学習内容によっては、積極的に学び直しの機会を設定する。

[英語]

- ・自分の考えをまとめて表現（書く）機会を増やす。
- ・学んだ表現をアウトプットするパフォーマンステストを設定する。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・授業以外「川中タイム」（週に 1 回 15 分）での小グループでの発表の機会を設定し、聞き手と話し手の両方の役割を意識させ、工夫した活動に取り組ませる。「川中タイム」の活動を重ねることで、発表時の意識や経験の積み重ねによる自信を生徒につけさせ、人に分かりやすく、工夫して伝える技術を習得できると考える。

1 生徒の実態

(1)学習状況調査結果の推移

R 3 入学 現 3 年生	国語			数学			英語		
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時
	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	66.9	53.5	68.0	44.4	39.6	45.0	54.2	51.6	39.0
	(0.97)	(0.95)	(1.00)	(0.85)	(0.99)	(0.96)	(0.98)	(0.94)	(1.00)
R 5 正答率の全国比			0.97			0.88			0.85

◎ 1・2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移である。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較である。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較である。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・令和 3 年度入学生（現 3 年生）は、学習状況調査の結果を県平均と比較すると、国語・英語（3 年時）は 2 年時より数値が上昇した。数学（3 年時）は 2 年時より下降したが、1 年時の数値を上回った。
- ・全国平均と比較すると、国語、数学、英語ともに、3 年時の数値は全国の数値を下回る。
- ・どの教科も「読み取ること」や「書くこと」の正答率が低い。誤答を分析すると、知識・技能が定着していないことや、それらを活用する力が身に付いていないことが見受けられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業の導入時に前回までに学習した内容の復習テストを実施したり、授業の振り返り時に授業で学習した内容の確認テストを実施したりすることで、知識・技能の定着を図る。
- ・授業の中で、様々な資料から情報を読み取る「読み取りタイム」を設定したり、自分の考えを書く時間を「ライティングタイム」と位置付けて実施したりすることで「読解力」や「書く力」の育成を図る。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・毎週金曜日の朝の時間に「読み取りタイム」を位置付けて、「認知機能強化トレーニング」や「読解力に特化した問題」に取り組む。
- ・帰りの会前に「学習タイム」を設定する。最初に取り組む教科を決めて、その後めあてを自主学習ノートに記入させてから自主学習に取り組ませる。残りを家庭で取り組ませることで家庭学習の習慣付けと内容の充実を図る。

1 生徒の実態

(1)学習状況調査結果の推移

R3 入学 現 3 年生	国語			数学			英語		
	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時	1 年時	2 年時	3 年時
	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)	県 (12 月)	県 (12 月)	全国 (4 月)
	62.3	50.0	48.2	46.0	30.5	52.3	48.2	43.0	36.0
	(0.9)	(0.88)	(0.94)	(0.88)	(0.76)	(0.91)	(0.87)	(0.95)	(0.92)
R5 正答率の全国比			0.92			0.84			0.79

◎ 1・2 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 5 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

・知識・技能は、3.7 ポイント全国を下回っている。思考力・判断力・表現力等は、6.7 ポイント全国を下回っている。「書くこと」の領域に課題が残る。

・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題が最も低く、全国の 6 割程度しかできていない。

【数学】

・知識・技能は、6.5 ポイント全国を下回っている。思考力・判断力・表現力等は、12 ポイント全国を下回っている。「図形」の領域に大きく課題が残る。

・空間における平面が同一直線上にない 3 点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題が最も低く、全国の 4 割程度しかできていない。

【英語】

・知識・技能は、7.9 ポイント全国を下回っている。思考力・判断力・表現力等は、11.4 ポイント全国を下回っている。「聞くこと」の領域に課題が残る。

・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題が最も低く、全国の 2 割程度しかできていない。

【意識調査】

・1 時間以上学習している生徒はいるが、2 時間以上学習している生徒は少ないことから、宿題のみの取り組みになっていると思われる。

・ICT 機器は勉強に役立つと思っているが、活用して勉強している生徒はあまり見られない。

・自分で考え、まとめる勉強をしている割合は、全国や県と同程度である。

・将来の夢や目標をもっている生徒の割合は、全国を少し上回る程度である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【共通】

・主体的に学習に取り組む態度の定着を図るために、生徒の身近にある話題と授業の内容を結び付けて、興味・関心を高める授業を展開する。

・定期テストに県学状の誤答の問題（類似問題）を必ず一問出題するなど、繰り返し指導を行う。

・授業の振り返りを毎時間書かせる。

【国語】

「書くこと」については、モデル文を示しながら書かせるようにする。

漢字等の学習は、既習事項を振り返りながら進めるようにする。

【数学】

・空間認知力を高めるために、タブレットや電子教科書を用いて、あらゆる方向から図形を捉えることができるようにする。

・視覚的な理解をしやすいように色分けを適切に行い、問題に取り組みやすいようにする。

【英語】

・リスニング練習をする際には、聞き取りのポイントを明確にしてキーワードを意識できるようにする。

・英作文では、1 文で終わらず、感想等も入れるように、日頃から練習をさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【共通】

- ・読書指導を丁寧に行う。
- ・家庭での過ごし方についてタイムマネジメントの指導を行う。

【国語】

- ・漢字や文法の復習を継続して行うよう指導する。

【数学】

- ・家庭学習では、計算問題ばかりでなく、図形領域やデータの活用などの問題も繰り返し解かせる。
- ・テストの文章問題では、部分点を明示し、少しでもやる気を高めるようにする。

【英語】

- ・家庭学習では、単語や英文の練習だけでなく、短時間でできるタブレットドリルやデジタル教科書を利用した音読練習なども取り入れ、継続した学習をするように指導する。
- ・テスト対策プリントは事前に余裕をもって配布し、「やればできる」という経験をたくさんさせる。プレテストも行い、繰り返し練習させる。